

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0972300560		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑B館		
所在地	栃木県下都賀郡藤岡町太田1395 (電話) 0282-61-1151		

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価確定日	平成19年9月27日

### 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	6人	常勤6人, 非常0人, 常勤換算6人	
	7人	常勤7人, 非常0人, 常勤換算7人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円~43,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代 - 2,000円</li> <li>・おむつ代 - 150円/1枚</li> <li>・日用消耗品 - 150円/1日</li> <li>・教養娯楽費 - 100円/1日</li> <li>・光熱費 - 350円/1日</li> <li>・電気代 - 50円/1日/1点</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380円	

#### (4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	16名	男性	1名	女性	15名	
要介護1	4名		要介護2	3名		
要介護3	7名		要介護4	2名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84.8歳	最低	56歳	最高	99歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、同法人が平成12年4月に道路を挟んでの隣地にグループホームを開設した後に平成13年、14年に1ユニットずつ開設したグループホームである。隣には同法人の老人保健施設があり、車で5分程度の場所に法人の母体医院があるなど、医療関係者との連携が充実している。現在、法人として3事業所5ユニットのグループホームがあり、ホーム長会議などで情報交換し質の向上に努めている。昨年2月ぐらいからセンター方式のアセスメントに取り組んでおり、全職員がそれぞれの担当入居者について取り組んでおり、改めて文字として情報を整理することで、入居者をより深く知ることができたと感じている。国道からそう離れていない場所にあるが、森の中にホームがあるという自然に恵まれた環境である。近隣に民家がほとんどないが、毎月の神社への参拝や外食、ドライブなどの外出の機会を数多く作って孤立感のないように努めている。法人として託児ルームを設置し、働きやすい環境づくりにも力を入れている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	センター方式のアセスメントに取り組むなど改善の取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員が取り組み、最終的に法人のグループホーム担当者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在のところ、運営推進会議のメンバーは入居者、ホームの管理者、計画作成担当者、法人内居宅介護支援事業所の介護支援専門員となっている。入居者からは食事や外食についての意見が出されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に近況報告をするほか、入居者一人ひとりに担当職員がおり、家族に毎月手紙、写真を送付している。預かり金は出納帳で管理し、家族が訪問した際に確認していただいている。ホーム単独での広報誌は作成していないが、2ヶ月に1回発行される法人の広報誌にグループホームのページがあり、新採職員などの紹介ページも設けている。重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明記しており、ホーム玄関にも苦情解決担当者を明記したポスターを掲示している。利用料の請求にあわせて定期的にアンケートを送付している。家族との面談内容を記録に残す様式を使用して情報の共有に努めている。ご意見箱を置いているが、今までに苦情等は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周りには、民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということとは難しい立地であるが、地元の小学校等との交流やボランティア、実習生の受け入れなどはしている。法人全体で自治会に加入している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人ひとりの人間性を重視します」「個人の生活歴を十分理解し、居心地のよい生活を営むことができるように支援します」「家庭的な雰囲気の中で生活することにより、安心と喜び、そして自信が持てるように支援します」「落ち着いた穏やかな環境を提供します」「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援します」を理念とし、その他に「ゆっくり、たのしく、いっしょに」を行動指針として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、行動指針等をホーム内に掲示し、朝夕の申し送り時や月1回のスタッフミーティング時に唱和するなどして共有を図り、その実践に努めている。実際に職員は理念をスムーズに述べることができる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りには、民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということは難しい立地であるが、地元の小学校等との交流やボランティア、実習生の受け入れなどはしている。法人全体で自治会に加入している。	○	今後、運営推進会議に自治会の方や民生委員などの地域の方に参加していただくことも検討しながら、当ホームならではの地域とのつきあい方を検討していくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	センター方式のアセスメントに取り組むなど改善の取り組みをしている。今回の自己評価は、全職員が取り組み、最終的に法人のグループホーム担当者が取りまとめた。	○	全職員での自己評価への取り組みを更に活かすためにも、自己評価での各職員間の違いを話し合うことにも期待したい。

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ、運営推進会議のメンバーは入居者、ホームの管理者、計画作成担当者、法人内居宅介護支援事業所の介護支援専門員となっている。入居者からは外食や外出先などの希望が出されている。	○	今後、自治会の方や民生委員などの地域の代表の方や町、地域包括支援センター、入居者家族等の参画を求め、情報提供をしながら、更に幅広い意見、助言などを運営に活かしていくことに期待したい。また、外部評価を踏まえての取り組み状況等の報告や話し合いをすることにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の担当者が窓口となって町との連携を図っている。グループホームも参加する法人の納涼祭には町長など町行政関係者も招待している。	○	運営推進会議に町にも参画していただき、グループホームの現状を伝えながら、より密接な連携を図っていくことを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に近況報告をするほか、入居者一人ひとりに担当職員がおり、家族に毎月手紙、写真を送付している。預かり金は出納帳で管理し、家族が訪問した際に確認していただいている。ホーム単独での広報誌は作成していないが、2ヶ月に1回発行される法人の広報誌にグループホームのページがあり、新採職員などの紹介ページも設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明記しており、ホーム玄関にも苦情解決担当者を明記したポスターを掲示している。利用料の請求にあわせて定期的にアンケートを送付している。家族との面談内容を記録に残す様式を使用して情報の共有に努めている。ご意見箱を置いているが、今までに苦情等は寄せられていない。	○	今後、家族の運営推進会議への参加なども検討しながら、更に意見、要望などを言える場づくりを充実していくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う職員の交代など2~3人ほどある年もある。法人独自の託児ルームがあり、働きやすい環境づくりにも力を入れている。担当制を取り入れていることもあり、職員が変わる場合には入居者の気持ちに配慮しながら引き継ぎをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催する定例会（職員会議）時にケアに関する勉強会を行ったり、法人の研修会にも参加できるようになっている。研修会の記録は、何の研修会にどの職員が参加したのか一覧にまとめられている。勤務調整をしながら認知症介護実践研修などの外部研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。当ホームのほか隣地に1ユニット、隣町に2ユニットのホームがある。ホーム長会議でそれぞれの課題を話し合うなど質の向上に努めている。法人の事務担当者は母体の老人保健施設の地域ブロック会議でグループホームを運営する他の法人担当者や交流する機会がある。管理者は外部研修で交流した他のグループホームに見学に行ったこともある。	○	法人内の他のホームが県内で2番目に開設したということもあり、他グループホームからの見学や実習を受け入れてきている。それらも活かしながら職員が他法人のホームと交流できるような場面づくりを検討することを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったときには、本人・家族にホームに来ていただき、また職員が自宅を訪ねるなどしている。入居当初は職員が他の入居者との関係構築をさり気なく支援したりして場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。まめに家族に訪問していただいたり、入居者が不安なときなどは家族に電話をして話をしたりしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理や掃除など昔からの知恵を入居者に教えていただくことも多い。調理の仕方など職員が困っていると入居者が手を差し伸べてくれたりすることもある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昨年の2月ぐらいからセンター方式のアセスメント方式に取り組んでいる。全職員がそれぞれの担当入居者について取り組んでおり、改めて文字として情報を整理することで、入居者をより深く知ることができ、入居者の思いを捉えやすくなったと感じている。半年ごとに24時間アセスメントまとめをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制をとっており、職員の気づきなどは伝達帳に記録している。訪問・電話での家族との話し合いの内容は面談記録表に記録している。担当者で介護計画作成担当者が話し合い、その方にあつた介護計画の作成に努めている。モニタリングを定期的実施しており、モニタリング記録表にはホーム側の評価欄、入居者又は家族の評価欄を設けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回、担当職員と介護計画作成者でケアカンファレンスを行い介護計画の見直しをし、状況・状態の変化などがあつたときは随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、また今まで利用はないが短期利用共同生活介護の指定も受けている。法人で多種多様な介護保険事業を実施しており、隣接する同法人の老人保健施設の理学療法士と連携するなど法人の中での多機能性を活かした支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、職員が付き添って協力医療機関でもある同法人の医院で受診している。かかりつけ医のある方は、家族が通院の対応をするようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受けており、看取りの指針を定めており、家族には個別に説明をしている。老人保健施設が隣接しており、また協力医療機関である法人の医院が比較的近くにあることから医療との連携体制は充実している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「介護十戒」「話しかけ介護十則」を定めており、また個人名は基本的に「さん」付けで呼んだり、居室に入る際には必ず声をかけるなど、職員は入居者の誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人記録等は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内には毎月、レクリエーションや外出の予定などを模造紙にカレンダー状に大きく書いて掲示しているが、参加を無理強いすることはない。一日の大まかな流れはあるが、入居者の気持ちを大事にした支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	2日に1回の買い物、調理、準備、片付けなど、それぞれの入居者のできる範囲で職員と一緒にしている。立ち作業が少なくなってきた方には、座ったまま絹さやのすじとりなどをしていただいたりしている。訪問時は職員1名と一緒に同じものを同じテーブルで食べ、1名が入居者のサポートに入り、1名が自分で買ってきたものを食べていた。入居者の状況を見ながら、職員間でスムーズに連携しながら、さりげなく支援している様子がうかがえた。	○	理念に謳われている「家庭的」という観点から、職員も入居者と一緒に同じものを食べることの検討も期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00～18:00ぐらいの時間で1対1または1対2で対応している。毎日入浴する方もいるが、平均すると入居者はおおむね週に3～4回は入浴している。入浴の苦手な方にも声かけや誘導の仕方などを工夫しながら、夏場は3日に1度、冬場は週に1度は入浴していただけるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ふらつきなどの入居者の身体状況、危険性に配慮しながら、「当番」を取り入れながら、調理、掃除などできることは職員と一緒にしている。写真、写経などの個々の楽しみごとのほか、ドリフのビデオ鑑賞や外食、ドライブ、日帰り旅行などの楽しみごとの機会づくりも支援している。図書館などにも出掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩したり、外で体操したりしている。2日に1回の買い物には職員1人、入居者1人で出掛けている。毎月近くの神社に参拝に行ったり、外食、ドライブに出掛けたりと外出の機会は多く作っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からはやや奥まった位置にあるが、不審者が出たこともあり、安全確保・防犯の観点から家族に了解を得た上で、玄関に錠を掛けている。外出の希望がある場合にはその都度、錠を開けて対応している。天気の良い日にはなるべく外にできるように配慮している。ホームの前には手入れの行き届いた中庭があり、玄関先にベンチを置いている。	○	玄関前の庭園スペースを有効に活用しながら、また入居者の安全・安心を確保しながら、入居者のより自由な暮らしを支えていける方法を模索し続けていくことに期待したい。

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する老人保健施設などとの合同の訓練を年4～5回、ホームとしても年3回ほどの訓練を定期的実施し、報告書を消防署に提出している。消防署とのホットライン機器が設置されている。	○	法人としての災害時の応援体制等はできているが、地震等の広域的災害も想定して、地域の方の協力が得られたり、またホームの機能を地域の方が使っていたりといった連携体制の構築を検討していくことにも期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、それに基づいて1日おきに食材を買っている。食事摂取量を記録し、水分の摂取量は必要時に記録している。月に1回体重測定をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間に中廊下はあるが、1方のユニットは長屋的な造りに、1方のユニットは中庭のある回廊状の造りになっており、それぞれに違う表情があった。設備や調度は家庭的なものを多く用いており、ホーム内には花や季節感に配慮した壁飾りなどを飾っている。食堂テーブルのほかにソファ、共用の和室があり思い思いの場所で過ごせるようになっている。光、音、臭いなども適切に配慮され、特に気になるようなことはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込みは自由になっており、家具、位牌や写真などをお持ちになり、それぞれの居室づくりをしている様子がうかがえた。居室は洋室の造りになっているが、布団を敷いて寝たいという希望に応じて部屋の一部に畳を敷いている居室もあった。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。